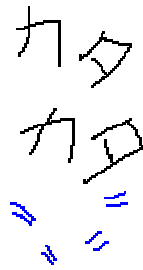


# 鑄物 言葉

文／NIT・新山英輔  
画／IJS・内田敏夫



## [型]

日本語には物事を音で実感的に表現した擬態語・擬声語が多いので、それから生まれたコトバが多いことはよく知られています。クルクルまわるものだからクルマ、ネーと鳴くからネコ、トクトクとお酒を注ぐからトックリ、カラカラと鳴くからカラス(スは鳥を表わす語尾、ウグイス、カケス)など、冗談みたいですがこれがほんとの語源だと専門家が言っています。

さて「型」について考えるためにまず「カ」のつく擬態語・擬声語をあげると、カタカタ、カチカチ、カラカラ、カリカリ、カサカサ、などがあり、ひとつの共通点として「堅い」感じをもっています。そして「カタイ＝堅い、固い、硬い」というコトバは「カタカタ」からきたといわれています。固める、固まる、塊り、難い、肩(身体の固い部分)、などのコトバもこのあたりから発生しています。そして粘土などを「カタメテ」作った模型が「カタ＝型」であり、「型」を使って「カタドツタ」ものが「カタチ＝形」です(チは意味のない接尾語)。以上が型と形の語源説です。

ついでにカのつく固そうなコトバをあげると、かかと、噛む、かしめる(絞める)、桴、鯉、亀、殻、貝、牡蠣、蟹、かたつむり、かね(金、鐘)、瓶、兜、瓦、などがあり、このなかの少なくともいくつかは「カ≡固い」という語感と関連した語源をもつのではないかと思います。

ところで漢字で型と形のどちらを使おうかと迷うことが多いですが、じっさいその関係は微妙のようで、広辞苑でカタを引くと見出しがいっしょで「形・型」となっています。そしてそのなかで、形状・模様・しるし、などの意味には「ふつう形と書く」とあり、原型・鑄型・形式・典型、などの意味には「ふつう型と書く」とあり、区別をややぼかしてあります。大型・中型・小型もそれぞれ大形・中形・小形といっしょの見出しになっていますから、どっちを書いてもいいらしいです。

これに対し、鑄造ではつねに「型」と書けば間違いはないのですが、それだけでは模型の意味か、鑄型の意味か、はっきりしないので、誤解を避けるためにはかならず「模型」とか「鑄型」とかいわなければなりません。その点、英語では雄型が pattern、雌型が mold and die と別のコトバなので混乱が少ないです。ついでに言えば、英語では mold cavity, die cavity というコトバがあって便利ですが、日本語では鑄型の中に形成される空間を指す的確な術語がないので不便です。しいて言えば鑄型空間でしょうが、あまりこなれた言い方ではない。かといってウロとかホラとかの古いコトバではあまり学術的に響かないし...